

文字かきする事なるをいひて。と民家も。天井のくま  
 斜に板はくするを。地つるも日。あまの天小を織  
 ひめといふ男をかう半一あきうく。さうと牽牛と  
 たふと。織女とあまのつめといひて。百集と  
 棚機と又百機立而織布と秋衣織取見  
 又  
 牽牛と織女今夜値天漢門赤浪立勿違  
 つまも織女とたれとこと例を。たまもつめは棚機女  
 つくつ文字の天津と上つ水は漸次つ水。まこは  
 玉津宮なんふけと。やまの文字なんり

七日 佳節の條

七月七日と俗七夕と唱へて。親戚互にあそび  
 づくと。二星相値の佳辰なりと望むる等あそんは  
 とも半なり。日本紀も持統天皇六年秋七月  
 七日宴公卿仍賜報。い家次舟も七日由良  
 供内膳司付床女と付女房入自鬼間北障子  
 供於朝餉きとんきとも。肉裡も御節供あり。  
 つらぬる御節の一と。正月一日。二月三日。又月又日。  
 七月七日。九月九日。あまの歴於る式日なり。文武乃  
 らんたふれ式とあそび。あまの民俗と